

チャレンジレポート

このコーナーは、長寿・子育て・障害者基金による助成事業のうち、高齢者や障害者の在宅福祉、子育ておよび障害者スポーツ振興などの参考となるものをご紹介します。

パソコンと工作機器を使用した 障害者の職業訓練と就労支援事業

特定非営利活動法人自立支援センターむく（東京都江戸川区）

特定非営利活動法人自立支援センターむくは、18歳から68歳までのさまざまな障害者の生活支援を行っています。

また、パソコンとメタルプリンタを連動させ、金属プレートを打刻するしくみを活用した就労支援も助成を受けて開始し、精力的に行っています。



特定非営利活動法人
自立支援センターむく
理事長
木村 利信さん

高校時代の同級生の誘いで ボランティアの道に

特定非営利活動法人自立支援センターむくの理事長である木村利信さんは、企業のエンジニアとして福祉とは無縁の生活をしていました。就職してから交通事故で障害者になった高校時代の友人に「一緒にパソコンボランティアをやりよう」と根気強く誘われ、脳梗塞のために車いす生活になってしまった方にパソコンを教えたところ、目からウロコが落ちた気分で、「もうちょっとこの世界を見てみたい」という気持ちに変わっていき、ボランティア活動で飛び回る日々を送るようになったのだそうです。

その後、福祉作業所で働き始めましたが、国から補助金をもらえるものの、その反面制約もあるため、

ジレンマを感じていたのだそうです。

そこで、平成12年に在宅障害者のパソコンボランティア団体を立ち上げ、平成15年にはNPO認証をとりま



インターネットの仕事に精を出します。

職員に給料を払えない苦しい時期もあったそうですが、現在は常勤・非常勤の職員が約60名、利用者約200名の大所帯になっています。

東京都江戸川区の学童保育室跡地を譲り受けて開

設した小松川支援センターを拠点としつつ、ホームヘルプや地域活動支援を行っています。

お台場でのショッピングが 助成事業のきっかけに

平成18年度には、独立行政法人福祉医療機構（WAM）の高齢者・障害者福祉基金「地方分」の助成を受けて、「パソコンと工作機器を使用した障害者の職業訓練と就労支援事業」を行いました。

「家族でお台場に遊びに行つたとき、金属プレートにカップルの名前や写真を彫って売っているワゴンショップがあつたんです。注文を受けてしばらくすると製品を渡している。チャット後ろをのぞいたらパソコンを操作していた。機械を見たらローラン

DATA

特定非営利活動法人自立支援センターむく
〒132-0034
東京都江戸川区小松川1-5-8
セーラ小松川8号棟1階
TEL. 03-3684-1602
FAX. 03-3684-3367
<http://www9.plala.or.jp/jmuku/>

ドと書いてあったので、帰宅するなりネットで調べて、次の日にはアポなしで飯田橋のショールームに行きました。その日は担当者が不在だったので、日を改めて全部説明を聞きました。メタザという機械は障害者も使えるそうなので、就労に結びつけることができそう。パソコンだけで商売するには高度な技術が必要でハードルが高いが、工作機械と組み合わせれば比較的簡単な操作で商品ができる。福祉医療機構の助成事業のことも知っていたので申請してみよう。思い立ったが吉日ということでとんとん拍子に進みました」と、木村さんは申請に至るまでの経緯を説明してくれました。

「助成を受けたことによつて、もともと考えていたものをステップアップすることができ、周りに認めてもらうこともできました。この助成がきっかけで、平成19年10月からは都立東部療育センター内の売店運営を受託するようになりましたし、厚生労働省の方が施設を見に来てくれて、就労支援活動を認めてくれたので、就労支援にも弾みがつきました」と、助成事業のすばらしさを熱く語ります。

“為せば成る”の心意気

小松川支援センターでは、パソコンが得意な人はパソコンを使った仕事、そうでない人は機械はたおりや木工の仕事、というように、利用者の個性に合わせた就労支援が繰り広げられています。

美容師の職員が無料でカットしてくれたり、障害

があつても楽しめるゲームが充実しているなど、快適に過ごすための工夫も随所にみられます。映画館やメイド喫茶に繰り出すこともあるそうです。利用者がやりたいと思うことはできるだけ実現する空気が満ちあふれていて、施設には笑い声が行き交います。

副施設長で美容師の野田小百合さんは、「いろいろな障害の、いろいろな年代の人がいて、何でもありなので、楽しいんじゃないかと思います」と、利用者の気持ちを教えてくれました。

「職員の3分の2が福祉畑ではなく企業で仕事をしてきた人なので、いろんな発想を受け入れてもらうことができます。福祉の専門家もちゃんとしているので、うまくバランスがとれているでしょうね」木村さんは誇らしげに言います。

療育センターの売店でパンを販売するため、東京都に助成してもらつてパン工房を増設する計画も、着々と進んでいるようです。

「どんなに時間がかかっても、何があつても、絶対にできると思



機械はたおりは根気のいる仕事です。

えば実現する、と自分に言い聞かせて、まずは行動しています。課題はスタッフ集めでしょいか。ハローワークに求人を出しても、福祉の仕事は安くて辛

い」というイメージがあるのか、なかなか来てもらえません。見学してくれるとだいたい気に入ってもらえるのですが」と、木村さんは話します。

夢や課題に果敢に取り組む姿はとても魅力的で、「自立支援センターむく」の今後ますますの発展が期待されます。

特定非営利活動法人自立支援センターむくによる「パソコンと工作機器を使用した障害者の職業訓練と就労支援事業」は、平成18年度に高齢者・障害者福祉基金の「地方分」助成事業テーマ③「高齢者、障害者の社会参加の促進に関すること」の事業として、助成を行ったものです。

独立行政法人福祉医療機構評価

もともと障害種別に分けて活動しており、そうしたところは現在も数は多くはありません。その中で、就労に結びつけるための訓練と、工賃を少しでも上げるための製品作りの両方を意識して、今回の試みをした点は、先駆的であり注目されます。

課題は販路の確立であり、現在は区内のフェアで売った程度で、価格のつけ方も高いということに値下げしました。そうした販路への支援する専門家がいたら、もっと広がる可能性があります。

平成19年10月からは江東区の療育センターの売店運営を受け、そこでも製品を販売するようになったとのこと。NPOの良さを活かして創意工夫しています。

チャレンジ レポート

このコーナーは、長寿・子育て・障害者基金による助成事業のうち、高齢者や障害者の在宅福祉、子育ておよび障害者スポーツ振興などの参考となるものをご紹介します。

知的障害者の 社会参加推進支援事業

社会福祉法人四日市福祉会（三重県四日市市）

社会福祉法人四日市福祉会では、知的障害者のための入所更生施設・通勤寮・グループホームやパン工房を運営して、障害者の自立や社会参加を支援しています。また、地域通貨「ブルマネー」を発行して、地域住民とのつながりを深めるための取組みを展開しています。



社会福祉法人四日市福祉会 常務理事
柏木 三穂さん

前身の中小企業で 障害者雇用のノウハウ蓄積

社会福祉法人四日市福祉会は、平成6年7月に設立されました。理事長の柏木巖さんは、昭和19年頃から製造業を始め、会社組織になってからも、一貫して地域の障害者・高齢者を雇用してきました。昭和40年代からは障害者を雇用する企業に国から補助金がおりるようになり、それも利用しながら経営し、障害者雇用のノウハウを蓄積していきました。

一方、1つの中小企業で雇用できる人数には限りがあることや、不景気の波が押し寄せてきたこともあり、発想を転換して、支援施設を開設して障害者が社会に適應できるように育成し、社会に送り出すことで、より多くの障害者を支援することにしました。

平成7年には知的障害者入所更生施設「垂坂山ブルーミングハウス」を開設するとともに、授産施設として「パン工房ブルーミング」を隣接させました。その後も、合計3つの施設や5つのグループホームを開設して支援の幅を広げています。また、平成20年度からは、単独事業として「相談支援事業」も行うこととしています。

地域通貨「ブルマネー」 成功するまで根気よく継続

当初から、地域に出向くことに力を入れてきたものの、地域の方々を受け入れることがおそろかになつていたことに気づき、「ボランティア通信」を配布したり「ブルフェスタ」というお祭りを開催する

ようになりまし
た。

また、平成18年度には、独立行政法人福祉医療機構（WAM）の高齢者・障害者福祉基金「地方分」の助成を受けて、「知的障害者の社会参加推進支援事業」として地域通貨「ブルマネー」を発行しました。

「職員にはどんどんアイデアを出してもらおうようにしているのですが、この地域通貨も職員の発案に



19年度のブルフェスタでは、近隣の高校生がマンドリンを公演してくれました。

DATA

社会福祉法人四日市福祉会
〒510-0007
三重県四日市市別名3-3-10
TEL. 059-331-8660
FAX. 059-331-3371
<http://www.blooming.or.jp/>



パンを買うと「ブルマネー」がもらえます。

近所の花屋さん。ある職員が

「ブルマネーも今はまだパン工房でパンを買っていただいたときのサービス券の要素が強いのですが、これから2年ぐらいかけて地域協賛店を増やすなどして、利用価値の高いものにしていきたいと思っています。」

ブルマネーを利用してボランティア活動のやりとりをするのを到達目標にしています」と、柏木さんの話に熱がこもります。

よるものです。助成申請前の県の審査会では『そんなの成功すると思うんですか?』と言われましたが『成功するまで続ければ失敗はしないうすよね』と答えたんです」と、常務理事の柏木三穂さんは申請当手を振り返ります。

「法人では事業化していないものに予算をつけるのは難しいため、助成によって予算化できたおかげで運営しやすかったし、信頼度も高くなりました。スタッフがブルフェスタを成功させるために知恵を絞るなど、行動の基軸にもなりました」と、助成の効果は絶大だったと話す柏木さん。

職員のアイデアをよく聴いて 事業運営に活かす

んに地域協賛店になってもらうようにお願いしたところ、快諾してもらえたそうです。職員の頑張りを心から喜ぶつつ、「本業にも利益をもたらし、ボランティア活動にも弾みがつく、というようにお互いに相乗効果が出るようにしたいですね」と柏木さんは力強く話します。

柏木さんはよく、職員に「よきにはからえ」と言うのだそうです。「一人でも考えても限界があります。

職員からの意見をよく聴いて、確実に上手にまとめなければ成長していくし、仕事も楽しくなりますよね。職員が気持ちよく働いてくれるのは私にも大きなメリットです」トップの度量の大きさがうかがえます。

「長い間、義母の下で働いてきて、交渉の大切さが身にしみてわかっていたので、職員にも、自分の考えを上の人に理解してもらうために、交渉力を磨くように伝えていきます。自分がよく理解して情熱をもって相手に伝えないと交渉は実らないから、交渉する力を身につけるように言っています」との、経験に裏打ちされたことばには重みがあります。

夏からは、これまでコツコツと貯めてきた資金でパン工房をリニューアルするのだそうです。現状では店舗販売と配達の上売が半々ですが、店舗で販売する量を増やして配達コストを抑えることを検討中

だそうです。また、高級感のあるパンを単価を上げて販売するなどして、年商を1.5倍までアップさせるべく、職員が忙しい日常業務の合間に商品開発も行っているのだそうです。

「めざせ東海一、という気持ちで頑張っています。社会福祉施設のパン屋だから買っていただけではなく、おいしいパン屋だから買っていた。なおかつバックヤードとして社会福祉の活動もしている施設なので、何かの折にはご協力いただき、というように相乗効果ができるといいですね」柏木さんたちの夢は、実現に向けて確実に歩を進めています。

社会福祉法人四日市福祉会による「知的障害者の社会参加推進支援事業」は、平成18年度に高齢者・障害者福祉基金の「地方分」助成事業テーマ③「高齢者、障害者の社会参加の促進に関すること」の事業として、助成を行ったものです。

独立行政法人福祉医療機構評価

知的障害者によるパン作りの試みを発展させるための「地域通貨」という手法が妥当だったかは一考の余地がありますが、今回の助成事業を通じて地域の人のつながりをしようとした点、また少しずつではありますが地域とのつながりができてきた点は評価できます。

今後の継続にも強い意志を持っており、期待しています。

チャレンジ レポート

このコーナーは、長寿・子育て・障害者基金による助成事業のうち、高齢者や障害者の在宅福祉、子育ておよび障害者スポーツ振興などの参考となるものをご紹介します。

市民病院小児病棟の為の 宿泊施設開設の運営事業

たんぽぽハウス（熊本県熊本市）

たんぽぽハウスは、病院に入院している子どもを持つご家族のための宿泊施設です。熊本大学附属病院小児病棟の近くに2か所、熊本市市民病院の近くに1か所あります。子どもとその家族をサポートしたいと願うボランティアによって運営されています。



たんぽぽハウス
代表
清田 純子さん

DATA

「たんぽぽハウス」運営委員会

〒861-8084

熊本県熊本市清水岩倉3-6-5 田上様方

TEL&FAX. 096-339-6379

<http://www.jhhh.jp/>

（日本ホスピタル・ホスピタリティ・ハウス・ネットワーク）

宿泊施設を提供して 患児の家族をサポート

「たんぽぽハウス」は、平成7年、熊本大学附属病院小児病棟に遠方から入院している子どもに付き添う家族のための宿泊施設として、九州で初めて開設されました。運営は小児病棟ボランティア「たんぽぽの会」が担当していました。

その後、平成11年に2号館が開設され、平成18年度には、独立行政法人福祉医療機構（WAM）の子育て支援基金「地方分」の助成を受けて、「市民病院小児病棟の為の宿泊施設開設の運営事業」として、3号館を開設しました。

運営は、平成16年より「たんぽぽの会」から独立した「たんぽぽハウス運営委員会」が行っています。

病院との連携

もよく、どの施設も、小児病棟の看護師長さんが宿泊申込みの受付から利用料の受取りや鍵の受渡しまでのコーディネートを引き受けてくださっているとのこと。



たんぽぽハウスを支える運営委員

「コーディネートを看護師長さんが担当してくださるところは、全国の宿泊施設をみても珍しいと思います。全体の状況から宿泊が必要なお家族の優先順位も判断していただけるのでありがたいです。私たちは主婦ボランティアなので、病院に常駐すること

ができません。お忙しい中、担当していただけて本当に助かります」と、代表の清田純子さんは話します。熊本市市民病院の看護師長さんは、「春に前任から引き継いだときも、当然だと思っていたので負担感はないですよ」とにこやかに話してくれました。

助成があつたからこそ 開設できた3号館

「熊本市民病院の近くに開設した3号館は、普通のマンションを賃借しています。通常なら家賃を助成していただけることはないと思いますが、事情を理解してくださって家賃や家財道具を購入する資金を助成していただいたことは、本当にありがたかったです」と、清田さんは申請当時に振り返ります。

「たんぼぼハウス」は、感染予防のため病室に入れない弟妹と、夜間だけでも親子一緒に過ごしたり、治療で食欲が落ちている患児に好物を作って差し入れるなど、さまざまな用途で利用されています。

どの施設も、月に1回は運営委員会で清掃し、利用者となるご家族が快適に過ごせるように配慮されています。掃除機をかけるだけでなくフローリングの床を水拭きし、トイレや風呂場などの水回りも念入りに掃除します。シーツも利用のたびに交換し、クリーニングに出しているそうです。

「お子さんの長期療養によって、ご家族は、精神的・肉体的・経済的に厳しい状況を余儀なくされます。遠方の方も多いので、なるべく低料金で、わが家でくつろいでいるのと同じ快適な空間を提供したいと思っています」、「ご家族が少しでも元気になれば、病氣と闘っているお子さんもうれしいですよ」と、清田さんをはじめスタッフの方々は口をそろえます。



念入りの掃除で快適空間を

東京での同様の宿泊施設を利用したところのあるメンバーから、施設をより使いやすくするための提案を受けるなどして、日々工夫が重ねられます。

「利用者ノート」がサポートの励みに

各施設には「利用者ノート」が備え付けられています。「何もかもそろっており、キレイなお部屋で気持ちよく過ごさせていただきました。ボランティアの方の温かいお心遣い、本当にありがとうございます」、「今日は、久しぶりに家で留守番している子どもと一日過ごすことができました。とても助かっています」、「治療でなかなか食べられないときもここで作って持つて行けるので本当に助かっています」（わが子も）一日一日と回復に向かっていきます。運営してくださってありがとうございます」など、ノートには利用者からの感謝の言葉があふれています。

2号館と3号館は2LDKで、2つの家族で利用することができま。初孫の心臓手術のために利用した方は「娘夫婦が初日に利用させていただいた日、同じ鹿児島島の若いご夫婦と一緒にたつたそうで、一足先に手術をされたお子さんの親御さんということ、いろいろと励ましてくださって心強かったということでした。同じ心配、同じような経験をもつ方々とのふれあいの場として、たんぼぼハウス」さんの存在は本当に大きなものとありがたく思いました」と綴っています。

「利用者ノートを読むと、ご家族の思いが手にと

るようにわかり、本当に頑張ってきてよかったと思います。正直なところ、毎月家賃を払い続けるのはとても大変です。でも、利用者からのメッセージに励まされ、いろいろな助成も視野に入れつつ知恵を絞っています。運営委員もベストメンバーなので、これからも地道に頑張ります」と、とびきりの笑顔で話してくれた清田さん。

「たんぼぼハウス」はこれからもずっと、病気の子どもとご家族を支えてくれることでしょう。

たんぼぼハウスによる「市民病院小児病棟の為の宿泊施設開設の運営事業」は、平成18年度に子育て支援基金の「地方分」助成事業テーマ①「地域や家庭における子育て支援事業に関する事」の事業として、助成を行ったものです。

独立行政法人福祉医療機構評価

熊本市民病院の小児病棟に入院している患児とその家族を支援するために、宿泊施設を開設運営されたものです。当助成金では、主に家賃補填と必要な家電製品や寝具類を中心に設備整備が行われています。

施設は、病院から近くて安心且つ低料金で提供できており、患児と家族のQOLが高まるほか、精神的・経済的負担軽減につながっていることから、その役割と意義は大きいと考えています。（18年度中には延べ宿泊数277の実績。）

また利用者ノートには、家族からの感謝いっぱい言葉がつけられています。